

乳幼児の保護者における 就学前教育へのイメージと期待 —モンテッソーリ教育に関する知識と経験の影響—

村井 佳比子 神戸学院大学心理学部 道城 裕貴 神戸学院大学心理学部

清水 寛之 神戸学院大学心理学部

**Images and expectations of preschool education in parents with infants:
Focusing on the influence of knowledge and experiences of Montessori education**

Keiko Murai (*Department of Psychology, Kobe Gakuin University*)

Yuki Dojo (*Department of Psychology, Kobe Gakuin University*)

Hiroyuki Shimizu (*Department of Psychology, Kobe Gakuin University*)

本研究は、モンテッソーリ教育を手がかりに、教育内容に関する知識や経験の違いによるモンテッソーリ教育へのイメージや期待の差を検討し（調査1）、さらに、モンテッソーリ教育に関するレクチャーの前後でイメージや期待にどのような変化があるかを調べることで（調査2）、乳幼児をもつ保護者に対して適切な情報提供のあり方を検討することを目的とした。調査1の結果、モンテッソーリ教育において、主体性を育み、創造性を伸ばすというイメージが定着しており、その効果としても実感されていることがわかった。その一方で、モンテッソーリ教育の効果を感じられないとの回答もあった。調査2の結果、レクチャーを受講することで、モンテッソーリ教育の「主体性・創造性」のイメージを促進するとともに、育児のなかですでに実行できていることに気づき、育児への義務感が低減する効果があることが示された。子育て関連の情報の一部は正確に伝わっておらず、時にはそれが適切な保育を阻害する可能性があるが、しかし、これをふまえて丁寧に情報伝達することで、役立つ支援につながることを示唆された。

Key words: parents of infants, preschool education, Montessori Education

キーワード：乳幼児の保護者、就学前教育、モンテッソーリ教育

Kobe Gakuin University Journal of Psychology

2024, Vol.7, No.1, pp.1-12

問 題

現代の日本社会では、都市化や核家族化、少子化等による家庭や地域社会の教育力の低下が指摘されている（文部科学省，2016）。こうした課題に対応するために、すでに2006年の教育基本法改正では、第11条に「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである」と新たな条文が追加され（文部科学省，2006）、これをふまえて

2008年に幼稚園教育要領が改訂されて（文部科学省，2008）、人間形成の基盤となる幼児教育の重要性や、家庭・地域とともに幼児教育を担うことの必要性が強調されていた。さらに2017年の幼稚園教育要領の改訂では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明記され、その基盤として、（1）豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」、（2）気付いたことや、できるようになったことなどを使い、

考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」、(3) 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」を育むことの必要性が示されている。

このような時代背景のなかで、改めて注目されるようになったのが代替教育（オルタナティブ教育：alternative education）である（蓑手，2022）。オルタナティブ教育の明確な定義はないが、文部科学省が管轄する正規の学校とは別の、独自の理念をもとにした教育全般を示しており、日本ではシュタイナー教育やモンテッソーリ教育がよく知られている（e.g. 田中，2021）。特にモンテッソーリ教育については、2023 年に史上初の 8 冠を達成した将棋棋士の藤井聡太氏がモンテッソーリ教育を受けていたということで注目を集めるようになった（e.g. 本間，2023）。

モンテッソーリ教育とは、イタリアの教育者であるマリア・モンテッソーリ（Maria Montessori, 1870-1952）によって提唱された教育法で、子どもは自ら学び、成長しようとする力をもっているため、環境（物的環境・人的環境）を整えることが重要であるとしている（Montessori, 1967）。モンテッソーリ教育は、継続的に実施されている教育としては最も古く、世界で最も広く実施されているオルタナティブ教育であり、現在、米国だけでも 550 以上の公立学校と 3000 以上の私立学校で採用され（Randolph et al., 2023）、日本において乳幼児を対象としてモンテッソーリ教育を実施している園は 180 以上あることが報告されている（日本モンテッソーリ教育総合研究所，2024）。

一方で、モンテッソーリ教育の効果については明確にはなっていない。モンテッソーリ教育は商標登録されていないため、その実施方法にかなりの幅があることが報告されており（Randolph et al., 2023）、また、これまで実施された無作為化比較試験では、学業面・非学業面ともに、公的に定められた正規の教育よりも優れた効果があることが報告されているものの、サンプルサイズの小ささや対象の偏り等、研究の妥当性が問題となっている（Gentaz & Richard, 2022）。

少子化、高学歴化が進むなかで、乳幼児の早期教育への関心が高まっており、加熱しすぎる早期教育には弊害があることが指摘されている（清水・相良，2012）。たとえば、OECD（Organisation for Economic Co-operation and Development：経済協力開発機構）が実施している生徒の学習到達度調査（Programme for International Student Assessment, PISA）の国際比較で常に上位を保持しているシンガポールでは、1965 年の建国当初から教育重視の政策が推進されており、当時は知育重視の詰め込み教育が行われていた。その後、競争の加熱や、教育の二極化等、知育重視教育の弊害が指摘されるようになり、1990 年後半から

始まった教育改革で、子どもの知的好奇心を育む教育に変換が行われた（李，2021）。しかし、現在も就学前教育においては、複数の語学教育や、望ましい価値を子どもに「説教」する時間が設けられており、詰め込み教育の弊害が根強く残されているという（李，2021）。日本においてはこれまで、0 歳児教育の重要性を謳って 1969 年に設立された井深大氏の「幼児開発協会」（井深，1971）、1960 年代に発表された石井勲氏の「石井式漢字教育」（石井，1997）、1950 年代から開発が始まった七田眞氏の「七田式右脳教育法」（しちだ・教育研究所，2023）等、さまざまな教育理論・方法が発表され、早期教育が提唱されてきた。これらの早期教育そのものに弊害はなくとも、それを誤って理解し、我が子が思い通りの子どもになると期待することは、子どもの成長を阻害する可能性がある。

ウェブ上に公開されているモンテッソーリ教育の紹介記事の中には、「モンテッソーリ教育を受けた子どものその後がすごい！」「モンテッソーリ教育で才能をぐんぐん伸ばす！」といった誇大広告のような扇動的なものがあり、モンテッソーリ教育を十分に理解することなく、子どもにモンテッソーリ教育を受けさせれば自動的に才能が開花するといった誤解や、受けさせなければならぬといった焦燥感を生じさせる危険性が潜んでいると思われる。そこで本研究は、モンテッソーリ教育に関する知識や経験の違いによるモンテッソーリ教育へのイメージや期待の差を検討し（調査 1）、さらに、モンテッソーリ教育に関するレクチャーの前後でモンテッソーリ教育へのイメージや期待にどのような変化があるかを調べることで（調査 2）、乳幼児をもつ保護者に対して教育方法に関する情報提供を行うにあたり、どのような点が理解されやすく、その逆に誤解を生みやすいのかを見だし、適切な情報提供のあり方を検討することを目的とする。

調査 1

調査 1 は、乳幼児をもつ一般の保護者を対象に、モンテッソーリ教育に関する知識や経験の違いがモンテッソーリ教育への期待やイメージにどのような影響を及ぼすのかを検討することを目的とした。

方 法

調査対象者

民間の調査会社に登録しているパネラーのうち、調査に同意を得た就学前の乳幼児をもつ保護者 600 名（男性 300 名、女性 300 名、平均年齢 37.4 歳、 $SD = 8.46$ ）を対象とした。

調査方法

Web による質問紙調査を、2023 年 11 月に実施した。実施にあたっては、研究内容の説明と回答中止の自由、データの保管方法や利用についての説明画面を表示し、調査への協力に同意すると回答した者のみ回答ページに進めるように設定した。

調査内容

調査は、フェイスシート、モンテッソーリ教育に関する認知度、モンテッソーリ教育に対するイメージに関する質問、および、こども園等の就学前の子どもの対象とした施設に対する期待に関する質問で構成されていた。また、子どもがモンテッソーリ教育を取り入れた施設に通っている、あるいは、通った経験がある人に対しては、モンテッソーリ教育による子どもの変化に関する質問への回答を求めた。

1. フェイスシート

調査対象者の性別、年齢、子どもの性別と年齢について回答を求めた。

2. モンテッソーリ教育に関する認知度

モンテッソーリ教育に対する認知度を調べるため、「『モンテッソーリ教育』を知っていますか？」と教示したうえで、5つの選択肢「1. 知っている：お子さんが『モンテッソーリ教育』を取り入れたこども園等の施設に通っている/いた」「2. 知っている：お子さんは『モンテッソーリ教育』を取り入れたこども園等の施設には通っていない/いなかった」「3. 知っている：本や講演会、TV 等でどういうものかを知る機会があった」「4. 聞いたことがあるが、あまりよく知らない」「5. 全く知らない・初めて聞いた」から回答を1つ選択するよう求めた。

3. モンテッソーリ教育に対するイメージに関する質問

モンテッソーリ教育に対するイメージについて、三谷他（1974）、および、福原（2021）によるモンテッソーリ教育に対する印象や期待に関する項目に

ついて類似した項目をまとめ、15 項目の尺度を作成した(表1)。モンテッソーリ教育のイメージについて、それぞれの項目に対し、「1:まったくあてはまらない」から「5:非常にあてはまる」の5件法で回答を求めた。

4. 就学前の子どもの対象とした施設に対する期待に関する質問

こども園等の就学前の子どもの対象とした施設に対する期待について、「あなたはご自身の子どもを、保育園等の就学前の子どもの対象とした施設に預ける際に、施設に対し、どのようなかかわりを期待されますか？」と教示し、自由記述で回答を求めた。

5. モンテッソーリ教育による子どもの変化に関する質問

子どもがモンテッソーリ教育を取り入れたこども園等の施設に通っている、あるいは、通っていた調査対象者に対して、「モンテッソーリ教育」を受けることによってお子さんにどのような変化があったと思いますか？」と質問し、自由記述による回答を求めた。

倫理的配慮

調査対象者に対し、調査開始前の画面に調査の目的と内容を明記した説明文書、および、調査への協力は調査対象者の自由な意思で決められること、調査に同意をした後でも回答を送信するまでは同意の撤回・回答の中断ができること、調査に協力しなくても不利益を被ることは一切ないこと等の倫理的配慮についての文書を表示し、調査に同意する場合に同意欄にチェックをしたうえで回答するよう教示した。また、同意欄にチェックをした場合のみ、回答できるよう設定した。

結果

モンテッソーリ教育に対するイメージ尺度の因子分析

モンテッソーリ教育に対するイメージについて、最尤法とプロマックス回転による因子分析を行い、固有値の減衰パターンと因子の解釈可能性を考慮して3因子を抽出した。回転後の最終的な因子パターンを表2に示す。第1因子は「自主性が育まれる」「創造力が育まれる」等、主体性と創造性に関する項目で構成されていることから、「主体性・創造性」と命名した。第2因子は「礼儀正しくなる」「規則正しい生活習慣が身につく」等、社会性に関する項目で構成されていることから、「社会性」と命名した。第3因子は「わがままになる」「落ち着きがなくなる」といった、非協調的な項目で構成されていることから、「非協調性」と命名した。Cronbach の α 係数は第1因子 .931、第2因子 .879、第3因子 .793 であり、十分な内的整合性を有していると判断した。なお、第1因子と第2因子の因子間相関がやや高めであるが ($r=.76$)、モンテッソーリ教育は協調性が育ちにくく、

表 1

モンテッソーリ教育に対するイメージ尺度

1. 文字や数字への関心が高くなる
2. 好奇心が旺盛になる
3. 観察力が身につく
4. 自主性が育まれる
5. 自己主張ができるようになる
6. 明るく思いやりのある性格になる
7. 協調性が身につく
8. 活発になる
9. 手先が器用になる
10. 集中力が身につく
11. 礼儀正しくなる
12. 規則正しい生活習慣が身につく
13. わがままになる
14. 創造力が育まれる
15. 落ち着きがなくなる

集団になじめなくなる可能性があるとする意見があることから（岩瀬，2022），本研究においては「主体性・創造性」と「社会性」という別の側面からモンテッソーリ教育のイメージをとらえることが重要であると考え，このイメージ尺度を 3 因子構造であるとし，分析を行うことにした。

モンテッソーリ教育の認知度によるイメージの差

モンテッソーリ教育の認知度についての 5 つの回答それぞれについて，1 を「経験群」，2 を「認知群」，3 を「知識群」，4 を「曖昧群」，5 を「未知群」として，群を独立変数としたイメージの各下位尺度の差をみるために，1 要因の分散分析を行った（表 3）。その結果，主体性・創造性と社会性において，主効果が有意であった（ $F(4, 595) = 9.11, p < .01, \eta^2 = .06$ ； $F(4, 595) = 4.56, p < .01, \eta^2 = .04$ ）。多重比較（Holm 法）を行ったところ，主体性・創造性においては，未知群が他の 4 群に比べて有意に低く（ $ps = .00 \sim .24$ ），社会性については，経験群が知識群，曖昧群，未知群より有意に高いことが示された（ $ps = .00 \sim .01$ ）。非協調性については，群による差は認められなかった（ $F(4, 595) = 3.44, n.s.$ ）。

表 2
モンテッソーリ教育に対するイメージ尺度の因子分析

質問項目	I	II	III	共通性
I 主体性・創造性 ($\alpha = .931$)				
自主性が育まれる	.94	-.11	-.02	.74
好奇心が旺盛になる	.81	-.01	-.03	.65
自己主張ができるようになる	.78	.03	.05	.65
観察力が身につく	.76	.08	-.03	.68
創造力が育まれる	.76	.04	-.01	.62
集中力が身につく	.72	.08	-.04	.61
手先が器用になる	.59	.20	.04	.56
文字や数字への関心が高くなる	.43	.30	.01	.46
活発になる	.40	.40	.06	.57
II 社会性 ($\alpha = .879$)				
礼儀正しくなる	-.08	.88	-.04	.66
規則正しい生活習慣が身につく	.08	.77	-.02	.69
協調性が身につく	.12	.71	.02	.66
明るく思いやりのある性格になる	.28	.55	.02	.62
III 非協調性 ($\alpha = .793$)				
わがままになる	.02	-.03	.87	.76
落ち着きがなくなる	-.03	.01	.75	.57
因子間相関				
I	—	.76	-.05	
II		—	.08	
III			—	

表 3
モンテッソーリ教育の認知度によるイメージの差

	経験群 $n=52$		認知群 $n=91$		知識群 $n=67$		曖昧群 $n=163$		未知群 $n=227$		F 値	多重比較 Holm法
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD		
主体性・創造性	3.78	0.93	3.53	0.91	3.49	0.84	3.48	0.76	3.17	0.68	9.11**	経験群・認知群・知識群・曖昧群 > 未知群
社会性	3.66	0.95	3.30	0.83	3.19	0.80	3.23	0.81	3.09	0.73	4.56**	経験群 > 知識群・曖昧群・未知群
非協調性	2.76	1.10	2.42	0.94	2.74	0.87	2.46	0.87	2.69	0.79	3.44	

** $p < .01$

モンテッソーリ教育経験者と未経験者による就学前の子どもを対象とした施設に対する期待の差

子どもがモンテッソーリ教育を実施している就園前施設に通っている、あるいは、通っていたことがあると回答した52名（経験者）と、それ以外の548名（未経験者）、それぞれについて、就学前の子どもを対象とした施設に対する期待を検討するため、自由記述による回答をテキスト型データ分析ソフトKH Coder 3.00に読み込ませ、頻出語を確認したうえで、共起分析を行った。モンテッソーリ教育経験者の回答の総抽出語数は138、未経験者の回答の総抽出語

数は1,761であった。それぞれの頻出語を10位までまとめたものを表4-5に、また、共起分析の結果を図1-2に示す。共起ネットワーク図は、Jaccard係数が0.2以上の共起関係のみ表示するように設定した。いずれも「子ども」を中心として、モンテッソーリ教育経験者は「教育」「期待」「成長」、モンテッソーリ教育未経験者は「楽しい」「尊重」「個性」といった語が、比較的結びつきが強いことが示された。

表4

施設に対する期待についての自由記述における頻出語（モンテッソーリ教育経験者）

順位	語	頻度	順位	語	頻度
1	子ども	10	6	期待	2
2	成長	3	7	教育	2
3	安全	2	8	考える	2
4	管理	2	9	自分	2
5	関わり	2	10	伸ばす	2

表5

施設に対する期待についての自由記述における頻出語（モンテッソーリ教育未経験者）

順位	語	頻度	順位	語	頻度
1	子ども	86	6	安全	22
2	生活	35	7	関わり	22
3	協調	29	8	期待	21
4	集団	27	9	自主	20
5	身につく	26	10	社会	18

図1

共起分析（モンテッソーリ教育未経験者）

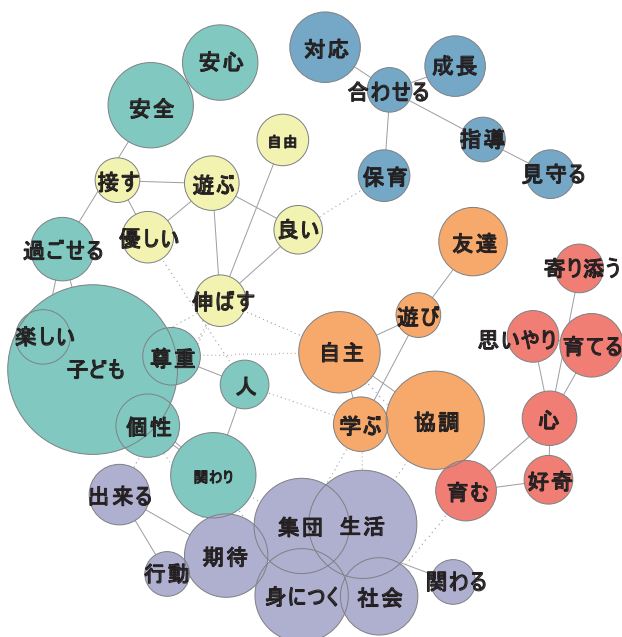
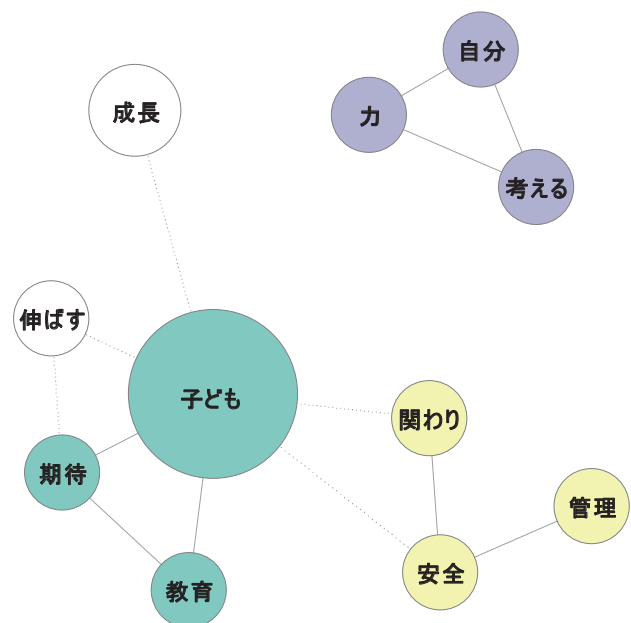


図2

共起分析（モンテッソーリ教育経験者）



モンテッソーリ教育による子どもの変化

子どもがモンテッソーリ教育を実施している就学前施設に通っている、あるいは、通っていた調査対象者 52 名に対し、モンテッソーリ教育によって子どもにどのような変化があったかを自由記述で回答を求め、51 名から回答を得た(表 6)。最も多かったのは、「好奇心旺盛になった」「自分で好きなことを見つけ動くようになった」といった、主体的な活動に関する項目(16 名)で、次に多かったのは「集中力が身についた」といった、集中力に関する項目(8 名)、続いて、「礼儀正しくなった」といった、社会性に関する項目(6 名)、「頭がよくなった」といった、学習に関する項目(2 名)であった。その他としては、「自然のなかで遊べるようになった」「安心できる」といった回答があった。また、特に変化がなかったとする回答が 12 名、モンテッソーリ教育が子どもに「合わなかった」という回答が 1 名あった。

考 察

調査 1 の目的は、モンテッソーリ教育に関する知識や経験の違いによる、モンテッソーリ教育へのイメージや期待の差を検討することであった。調査の結果、モンテッソーリ教育において、主体性を育み、創造性を伸ばすというイメージが定着しており、自身の子どもがモンテッソーリ教育を実施している施設に通っていた、あるいは、通っている場合、その効果としても実感されていることがわかった。一方で、モンテッソーリ教育の効果を感じられない、あるいは、モンテッソーリ教育が子どもに合わなかったとの回答もあった。

モンテッソーリ教育の認知度によるイメージの差について、子どもがモンテッソーリ教育を取り入れた施設に通っている、もしくは、通ったことのある「経験群」、子どもは通ったことがないが、モンテッソーリ教育を知っている「認知群」、書籍等によって知識として知っている「知識群」、聞いたことがあるがあまりよく知らない「曖昧群」、全く知らない「未知群」の 5 つの群で比較した。その結果、「主体性・創造性」については、「未知群」よりも、それ以外の群の平均

値が有意に高く、モンテッソーリ教育のイメージとして定着していることが示された。「社会性」については、「経験群」の平均値が「知識群」「曖昧群」「未知群」に比して有意に高く、一般的なイメージとしてはもたれていないことがわかった。一方、「わがままになる」「落ち着きがなくなる」といった「非協調性」については、いずれの群の平均値も 5 件法の 2.4 ~ 2.7 ($SD = 0.79 \sim 1.10$) となっており、「どちらともいえない」という回答が多かったことが示されている。このことから、どちらかといえば、モンテッソーリ教育を含む教育そのものに対して「わがままになる」「落ち着きがなくなる」といったネガティブなイメージや不信感のようなものはさほど持たれていないといえる。モンテッソーリ教育では、子どもたちが大人から独立して自由に行動できる環境が整えられ、その結果、主体性・創造性が促進され、深い集中力を得るようになることが強調されている(Gentaz & Richard, 2022)。このような説明は日本のインターネット上にも数多くみられ(e.g., LITALICO, 2022)、モンテッソーリ教育に対するイメージ形成の一因になっていると思われる。モンテッソーリ教育では「社会性」についても、「優雅さと礼儀正しさ」を練習するとともに、クラスに年齢枠を設けず、年上の子どもは年下の子どもを助けることに大きな誇りを持ち、年下の子どもは年上の子どもから学ぶことに満足感を得ることを目指しており、「社会性」の学習も重要な課題となっている(Gentaz & Richard, 2022)。しかし、これについては「経験群」のみイメージが高く、一般的なイメージとなっていないことがわかった。モンテッソーリ教育を実施している施設や書籍において「社会性」の育成について説明されているものの、「主体性・創造性」に関するイメージのインパクトが強いため、浸透しにくくなっているのではないかと考えられる。つまり、モンテッソーリ教育に対するイメージは、「主体性・創造性」が一般的なイメージとして広がっており、実際に実施されているモンテッソーリ教育とはやや異なっている可能性があるということである。

就学前の子どもを対象とした施設に対する期待について、モンテッソーリ教育「経験群」とそれ以外

表 6
モンテッソーリ教育による子どもの変化

内 容	人数
主体的になった・好奇心が高まった	16
集中力が身についた	8
思いやり等の社会性が身についた	6
頭がよくなった	2
その他	6
変化なし	12
合わなかった	1

の群の頻出語による共起分析を比較したところ、いずれも「子ども」を中心として、「経験群」では「期待」「教育」「伸ばす」「成長」といった語に、それ以外の群では「個性」「尊重」「楽しい」「人」「関わり」といった語につながりが見られた。モンテッソーリ教育「経験群」は教育を重視し、施設に対して子どもの力を伸ばすことへの期待が中心となっていることに対し、それ以外の群では、自身の子どもの個性を尊重し、楽しく安心して過ごせる場の提供を期待していることがうかがえる。いずれも子どもの成長を大切に考え、安全な場所で過ごすことを期待している語のまとまりがあることは同じである。一方、「経験群」には「自分」「考える」「力」という自ら考える力に関する語のまとまりがあり、それ以外の群では、「友達」「協調」、あるいは、「集団」「生活」、「思いやり」「心」といった協調性や社会性に関する語のまとまりが見られた。総抽出語数が138語と1,761語で大きな差があり、一概には言えないものの、一般的には施設に対し、子どもが友達と一緒に楽しく安心して過ごせる場を期待しており、モンテッソーリ教育を経験した保護者は、これに加えて、子どもが自ら考え、成長できる場を期待し、施設を選択、あるいは、モンテッソーリ教育を経験したことで子どもが自ら考えることを重視するようになった可能性があるといえる。

モンテッソーリ教育「経験群」に対し、モンテッソーリ教育によって子どもにどのような変化があったかについて自由記述による回答を求めたところ、51名中16名が「主体的になった」「好奇心が高まった」、8名が「集中力が身についた」と回答しており、モンテッソーリ教育のねらいである、主体性・集中力に関する回答が半数を超え、期待通りであったことが推測された。一方で、12名が「変化なし」、1名が「合わなかった」と回答していた。その要因として考えられることは、①当初のイメージや期待が実際と異なっていた、あるいは、②モンテッソーリ教育の実施方法に施設による差があったという2点があげられる。イメージや期待については、モンテッソーリ教育の「主体性・創造性」を育むイメージが大きすぎ、これを支える環境や教師の役割について十分理解していない場合、施設に入れば、あるいは、教材を与えれば、主体性や創造性が身につくと勘違いしてしまう可能性がある。実際のモンテッソーリ教育の環境には厳密な秩序があり、教材は定められた一連のステップ以外の方法での使用は禁じられている(Randolph et al., 2023)。また、教師は子どもに何かを教えようとするのではなく、子どもを注意深く観察し、必要に応じて教材の使用方法を見せ、環境の秩序の維持につとめることが求められている(Montessori, 1967)。一般的な施設に対する期待、つまり、先生や友達と一緒に楽しく遊ぶといったイメージをもっていた場合、期待外れと感じられるかもし

れない。もう一つの可能性として、モンテッソーリ教育の実施方法の施設による差があるが、これは冒頭でも述べたように、実施方法にかなりの幅があることが報告されており(Randolph et al., 2023)、また、教育効果についても十分に検証されていないことがわかっている(Gentaz & Richard, 2022)。このような受ける側の認識と、提供する側の支援のズレが、モンテッソーリ教育の効果に対する「変化なし」「合わなかった」といった回答につながったと推測される。以上のことから、モンテッソーリ教育には、主体性を育み、創造性を伸ばすというイメージがあるものの、それが時として現状とのズレを生み、期待とは違った結果となる可能性があるといえる。

調査2

調査2では、モンテッソーリ教育に関する簡単な内容説明の前後で、当該教育方法へのイメージや期待、子育てに関するとらえ方・感じ方にどのような変化が生じるかを検討することを目的とした。

方法

調査対象者

兵庫県の私立大学内にある地域子育て支援拠点でのプレイルーム開放(見守り保育)を利用している家族を対象に、チラシ配布やスタッフからの口頭による案内で、大学教員によるモンテッソーリ教育に関するレクチャー(無料)の実施を告知した。その結果、保護者18名が受講希望の意向を示した。そのうち当日参加し、かつ、調査に同意を得た14名(女性14名、平均年齢33.7歳、27歳～43歳、子どもの年齢0歳7か月～4歳5か月)を対象とした。

調査方法

レクチャーの前後で質問紙による調査を実施した。レクチャーは、2024年1月10日に実施された。受付時に、研究内容の説明が書かれた用紙を提示し、回答中止の自由、データの保管方法や利用について口頭で説明した上で、調査への協力を同意する場合に、同意欄にチェックを入れて回答するよう求めた。レクチャー終了時には、レクチャー開始時の質問紙と同じ番号の質問紙に回答するよう求めた。

レクチャーの内容

レクチャーのタイムテーブルを表7に示す。それぞれの内容は次の通りである。

1. 動画視聴

映画「モンテッソーリ子どもの家」の紹介動画(4分)を放映した(シネマトゥデイ, 2021)。「モンテッソーリ子どもの家」はドキュメンタリー映画であり、紹介動画では実際に「子どもの家」で子どもたちが

表 7

レクチャーのタイムテーブル

時間	内容
13:30～	受付開始 研究協力依頼
14:00～14:05	講師挨拶
14:05～14:10	モンテッソーリ動画視聴
14:10～14:25	レクチャー「モンテッソーリ教育って何だろう？」
14:25～14:40	レクチャー「就学前教育について」

自由に探索している場面や、集中して自分の好きな作業に没頭している場面を紹介している。

2. 講義「モンテッソーリ教育と子育てサロンまなびー」

モンテッソーリ教育の歴史や基本的な考え方を紹介、子育て支援拠点での見守り保育との共通点について、異年齢で関わる機会があること、教育的に配慮された環境のなかで、子どもの興味関心によって自発的・主体的に行動できることについて解説した。

3. 講義「モンテッソーリ教育 就学前教育編」

就学前教育について、子どもには個性があり、それぞれに好きなものが違うこと、驚くような反応があっても、それが子どもの視点であり、忍耐強く受け止めて育てることの大切さや、子どもの目線に合わせて本やおもちゃを配置することについて、具体例や失敗談を交えて講義を行った。

調査内容

レクチャー開始前の質問紙は、フェイスシート、モンテッソーリ教育に関する認知度、モンテッソーリ教育に対するイメージに関する質問、および、子育てに対する感じ方に関する質問で構成されていた。また、子どもがモンテッソーリ教育を取り入れた施設に通っている、あるいは、通った経験がある人に対しては、モンテッソーリ教育による子どもの変化に関する質問への回答を求めた。

レクチャー実施後の質問紙は、モンテッソーリ教育に対する認知度とイメージに関する質問、子育てに対する感じ方に関する質問、レクチャーの評価、受講の感想（自由記述）で構成されていた。

1. フェイスシート

調査対象者の性別、年齢、子どもの性別と年齢について回答を求めた。

2. モンテッソーリ教育に関する認知度

モンテッソーリ教育に対する認知度を調べるため、「『モンテッソーリ教育』を知っていますか？」と教示したうえで、5つの選択肢「1. 知っている：お子さんが『モンテッソーリ教育』を取り入れたこども園等の施設に通っている/いた」「2. 知っている：お子さんは『モンテッソーリ教育』を取り入れたこども園等の施設には通っていない/いなかった」「3. 知っている：本や講演会、TV等でどういうもののかを知る機会があった」「4. 聞いたことがあるが、あまりよく知らない」「5. 全く知らない・初めて聞いた」から回答を1つ選択するよう求めた。

3. モンテッソーリ教育に対するイメージに関する質問

調査1で使用した、モンテッソーリ教育に対するイメージ尺度を用いた。3つの下位尺度、「主体性・創造性」「社会性」「非協調性」、それぞれについて、「1: まったくあてはまらない」から「5: 非常にあてはまる」の5件法で回答を求めた。

4. 子育てに対する感じ方に関する質問

子育てに対してどのように感じているかを調べるため、育児動機尺度（寺藺，2019）を一部改変して使用した。5つの項目それぞれについて、「1: そう思わない」から「5: そう思う」の5件法で回答を求めた（表8）。

5. モンテッソーリ教育による子どもの変化に関する質問

子どもがモンテッソーリ教育を取り入れたこども園等の施設に通っている、あるいは、通っていた調査対象者に対して、「モンテッソーリ教育」を受けることによってお子さんにどのような変化があったと思いますか？」と教示し、自由記述で回答を求めた。

表 8

子育てに対する感じ方に関する質問

子育ては大変だけど楽しいと思う
子どもを育てることで自分が成長すると思う
他の人よりも良い子育てをしたいと思う
子育てはしなければいけないものだと思う
子育てすることで時間を無駄にしていると思う

6. レクチャーの評価と受講の感想

レクチャーの評価について、「1:全くよくなかった」「2:よくなかった」「3:どちらでもない」「4:よかった」「5:大変よかった」の5件法で回答を求めるとともに、受講した感想について自由記述で回答を求めた。

倫理的配慮

レクチャー参加者に対し、調査の目的と内容を明記した説明書を提示、なんら不利益を被ることなくいつでも調査を辞退できること、個人情報を守られることを口頭と書面で説明し、同意欄にチェックを得てから、調査紙に回答を得た。なお、本研究は神戸学院大学心理学部人を対象とする社会学系学系研究等倫理審査委員会の審査を経て神戸学院大学長の承認を得ている（承認番号：SP23-10）。

結 果

モンテッソーリ教育の認知度

調査対象者14名に対し、モンテッソーリ教育の認知度についてたずねたところ、「知っている（子どもが通っている）」1名、「知っている（通っていない）」1名、「知っている（本や講演会等）」3名、「聞いたことがある」9名、「全く知らなかった」0名で、最も多かったのは「聞いたことがある」人で、全体の約60%であった。モンテッソーリ教育を何らかの形で知っている人は5名（約35%）、全く知らなかった人の参加はなかった。また、モンテッソーリ教育

を取り入れた施設に子どもが通っていると回答した人1名に対し、子どもの変化をたずねたところ、「楽しそうにしている」「意欲的になった」との回答があった。

モンテッソーリ教育のイメージの変化

モンテッソーリ教育に対するイメージについて、レクチャー受講前と受講後の変化をみるために、解釈度それぞれについて対応のある t 検定を行った（表9）。その結果、「主体性・創造性」の平均値が、レクチャー後に有意に高くなった（ $t(13) = 4.49, p < .01, d = 1.03$ ）。一方、「社会性」「非協調性」には差は認められなかった（ $t(13) = 0.79, n.s.; t(13) = 0.81, n.s.$ ）。

子育てに対する感じ方の変化

子育てに対する感じ方について、レクチャー受講前と受講後の変化をみるために、質問項目それぞれについて対応のある t 検定を行った（表10）。その結果、質問項目「子育てはしなければいけないものだと思う」の平均値が、レクチャー後に有意に低くなった（ $t(13) = 2.51, p < .05, d = 0.45$ ）。それ以外の項目については差は認められなかった。

レクチャーの評価および感想

調査対象者14名に対し、レクチャーへの評価を「大変よかった」から「全くよくなかった」の5段階で求めたところ、「大変よかった」8名、「よかった」5名、「どちらでもない」1名であった。感想について、

表9

レクチャー前後のモンテッソーリ教育のイメージの変化

	レクチャー前		レクチャー後		t 値	有意差
	平均	SD	平均	SD		
主体性・創造性	4.12	0.47	4.56	0.38	4.49**	前<後
社会性	3.45	0.56	3.59	0.72	0.79	$n.s.$
非協調性	2.11	0.79	1.96	0.80	0.81	$n.s.$

** $p < .01$

表10

レクチャー前後の子育てに対する感じ方の変化

	レクチャー前		レクチャー後		t 値	有意差
	平均	SD	平均	SD		
子育ては大変だけど楽しいと思う	4.57	0.51	4.64	0.50	1.00	$n.s.$
子どもを育てることで自分が成長すると思う	4.71	0.47	4.64	0.50	1.00	$n.s.$
他の人よりも良い子育てをしたいと思う	3.21	1.12	3.36	1.15	1.00	$n.s.$
子育てはしなければいけないものだと思う	2.86	1.23	2.29	1.33	2.51*	前>後
子育てすることで時間を無駄にしていると思う	1.57	0.76	1.57	0.76	—	$n.s.$

* $p < .05$

表 11
受講の感想

内 容	人数
気づきがあった	4
育児に取り入れようと思った	3
わかりやすかった・よかった	3
その他	3

回答のあった 13 名の自由記述の内容をまとめたものを表 11 に示す。「難しく考えていたが、今、やっていることに結びつくことが分かった」「子育てに悩んでいたが、今日話を聞いてスッキリした」といった、育児に対して気づきがあったという回答が 4 件、「紹介してもらった方法をやってみようと思った」「今日のお話を取り入れて、待てるように頑張ろうと思った」といった、育児に取り入れるという回答が 3 件で、いずれもレクチャーにヒントを得て、具体的な取り組みにつながるという回答内容であった。また、「よかった」「わかりやすかった」「もっと勉強したい」という回答が 3 件、その他、スタッフや施設への感謝について述べられている回答が 3 件であった。

考 察

調査 2 の目的は、モンテッソーリ教育に関するレクチャーの前後でモンテッソーリ教育へのイメージや期待、子育てに対する感じ方にどのような変化があるかを調べることであった。検討の結果、レクチャーを受講することで、モンテッソーリ教育の「主体性・創造性」のイメージを促進するとともに、実際の育児と照らし合わせて、すでに実行できていることや、工夫できる具体的な方法があることに気づき、育児への義務感が低減する効果があったと考えられる。

モンテッソーリ教育に対する認知度について、全く知らなかった人はなく、聞いたことがある人が半数以上を占めることが分かった。モンテッソーリ教育のイメージについては、レクチャー後には「主体性・創造性」の得点が有意に高くなることが示された。「主体性・創造性」の得点はレクチャー前から比較的高く、これは調査 1 で得られた結果、モンテッソーリ教育の一般的なイメージとして、「主体性・創造性」が定着していること、また、「主体性・創造性」のインパクトが強く、広がりやすいのではないかと推測を支持するものであるといえる。一方、モンテッソーリ教育の「社会性」を育成する側面について、本研究で実施されたレクチャーでは動画やレクチャー「モンテッソーリ教育と子育てサロンまなびー」で取り上げていたが、さらに時間をかけて丁寧に説明する必要があることがわかった。

子育てに対する感じ方については、全体として「子

育ては大変だけど楽しいと思う」「子どもを育てることで自分が成長すると思う」という、ポジティブな感情の得点が高くなっていた。モンテッソーリ教育に対する認知度も高いことから、レクチャー参加者自身に好奇心があり、子育てを前向きにとらえて楽しもうとする姿勢をもつと考えられる。レクチャー受講後の変化としては、「子育てはしなければいけないものだと思う」の平均値が、レクチャー後に有意に低くなった。レクチャーの評価と感想をみると、回答者 13 名中 12 名が「よかった」「大変よかった」と回答しており、レクチャーにヒントを得て、具体的な取り組みにつながったとする回答が多くみられた。レクチャーの内容として、モンテッソーリ教育の基本的な知識とともに、日常生活のなかで実践できる工夫や具体例があったことで、「それなら自分もできるかもしれない」という動機づけにつながり、子育てに対する義務感を、子育てに対する楽しみや意欲に変えられたのではないかと考えられる。

加熱しすぎる早期教育には弊害があり（清水・相良, 2012）、教育方法を道具として使用し、我が子を思い通りの子どもにしようとする、子どもの成長を阻害する可能性がある。本研究で実施したレクチャーでは、モンテッソーリ教育の「社会性」についてのイメージを膨らませることはできていないが、「主体性・創造性」を育てることについて、子どもの予想外の行動を一旦受け止める忍耐力が必要であるということ、子どもの興味に合わせた環境を準備する必要があることを、育児の苦勞に共感しながら解説しており、モンテッソーリ教育の本質である、子どもがもつ自ら成長・発達する力を観察し、「発見」することについて、具体的な行動に落とし込んで説明している。このような工夫によって、短時間のレクチャーであっても、不必要に教育熱や育児への義務感をあおることなく、子育て支援に寄与することができるといえる。

まとめ

インターネットが家庭にも普及し、多くの情報を手軽に手に入れることができるようになるとともに、情報過多による混乱が生じたり、誤った情報が広がってしまったといったことが生じている。本研究では、子育て関連の情報の一部は正確に伝わっていない

いこと、時にはそれが現実と齟齬を生じさせ、適切な保育を阻害する可能性があること、しかし、これをふまえて丁寧に情報伝達することで、役立つ支援につながる可能性が示唆された。2023 年、止まらぬ少子化や深刻な児童虐待、増え続ける不登校等の子どもを取り巻く問題への対策として、こども基本法が施行され、子ども家庭庁が発足した。今後、より一層充実した支援の展開が期待されるが、その一翼を担うものとして、「地域子育て支援拠点事業」がある。これは地域で子育てを行う親子に対して、相互交流の場を提供することを目的として実施されているものであり、なかでも神戸市では大学を拠点とした子育て支援拠点づくりを推進している（道城他、2015）。大学で実施される子育て支援について、遊具やスタッフへの安心感の高さ、学生と触れ合う経験等、大学という場への信頼感があることが報告されており（村井他、2024）、本研究で示されたような適切な情報発信も役割の一つであるといえる。子育て支援事業において大学は、信頼できる環境や情報を提供するという役割を率先して果たしていく必要がある。

付 記

本論文に関して、開示すべき利益相反関連事項はない。本研究は、2022～2024 年度神戸学院大学心理学部社会貢献・地域連携プロジェクト助成、および神戸市地域子育て支援拠点助成金の助成を受けて実施された。

また、本研究の一部は、2024 年 9 月にアクトシティ浜松コンgresセンターで開催された日本教育心理学会第 66 回総会において発表された。

引用文献

- 岩瀬 裕紀 (2022). モンテッソーリ教育のいろは：後悔しないために知っておきたいメリット・デメリット and TOYBOX Retrieved October 13, 2024 from <https://and-toybox.com/blog/about-montessori/>
- 道城 裕貴・清水 寛之・小石 寛文・前田 志壽代・山上 榮子 (2015). 神戸市「地域子育て支援拠点づくり」事業にもとづく神戸学院大学「子育てサロン『まなびー』」の基盤整備. 教育開発センタージャーナル, 6, 77-89.
- 福原 史子・蜂谷 里香・岡本 純子 (2021). コロナ禍のモンテッソーリ教育に関する研究：ポストコロナ時代へ活かす成果と課題. ノートルダム清心女子大学紀要, 45(1), 35-55. <https://cir.nii.ac.jp/crid/1050570187274523136>
- Gentaz, E., & Richard, S. (2022). The Behavioral Effects of Montessori Pedagogy on Children's Psychological Development and School Learning. *Children*, 9, 133.

- <https://doi.org/10.3390/children9020133>
- 本間 綾 (2023). 将棋・藤井聡太も受けていた：やりたいことを叶える「モンテッソーリ教育」FRaUedu Retrieved October 14, 2024 from <https://gendai.media/articles/-/117635?imp=0>
- 井深 大 (1999). 幼稚園では遅すぎる サンマーク出版
- 石井 勲 (1997). 0 歳から始める脳内開発—石井式漢字教育 蔵書房
- LITALICO (2022). モンテッソーリ教育とは? Retrieved January 22, 2024 from <https://wonder.litalico.jp/news/column2208-1/>
- 蓑手 章吾 (2022). 公立小が 98% の日本で「オルタナティブスクール」が増える本当の価値:「モンテッソーリやシュタイナー」日本でも脚光 東洋経済 education × ICT 編集部 Retrieved October 13, 2024 from <https://toyokeizai.net/articles/-/625760>
- 三谷 嘉明・平井 久・春木 豊・伊藤 秀子・余語 正一郎 (1974). モンテッソーリ教育法に関する一考察 (2): 教師および両親による園児の印象調査. 日本教育心理学会第 16 回総会発表論文集, 176-177. https://doi.org/10.20587/pamjaep.16.0_174
- 文部科学省 (2006). 教育基本法 Retrieved January 22, 2024 from https://www.mext.go.jp/b_menu/kihon/about/index.htm
- 文部科学省 (2008). 幼稚園教育要領 Retrieved January 22, 2024 from https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/you.pdf
- 文部科学省 (2016). 時代の変化に伴う学校と地域の在り方について Retrieved January 22, 2024 from https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1365161.htm
- 文部科学省 (2017). 幼稚園教育要領 Retrieved January 22, 2024 from https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/04/24/1384661_3_2.pdf
- Montessori, M. (1967). *The discovery of the child*. Ballantine Books.
- 村井 佳比子・清水 寛之・道城 裕貴・難波 愛・岡野 太郎・中村 敏 (2024). 神戸学院大学「子育てサロン まなびー」の社会的・教育的意義に関する心理学的研究. 2023 年度 神戸学院大学心理学部社会貢献・地域連携プロジェクト成果報告.
- 日本経済新聞 (2018). 1.57 ショック Retrieved January 22, 2024 from <https://www.nikkei.com/article/DGKKZO29090020W8A400C1TM1000/>
- 日本モンテッソーリ教育協会 (2024). モンテッソーリ教育実施園リスト Retrieved January 22, 2024 from https://sainou.or.jp/montessori/about-montessori/sitqf000000003rl-att/List_schools_20240112.pdf
- Randolph, J. J., Bryson, A., Menon, L., Henderson, D. K., Kureethara Manuel, A., Michaels, S., rosenstein, debra leigh walls, McPherson, W., O'Grady, R., & Lillard, A.

- S. (2023). Montessori education's impact on academic and nonacademic outcomes: A systematic review. *Campbell Systematic Reviews*, 19(3), e1330. <https://doi.org/10.1002/CL2.1330>
- 田中 怜 (2021). 「オルタナティブ教育」とは？ みんなの教育技術 Retrieved October 13, 2024 from <https://kyoiku.sho.jp/110000/>
- 寺 蘭 さおり (2019). 子育て期の母親の育児行動に対する基本的心理欲求充足と動機づけとの関連. *小児保健研究*, 78, 33–40. <https://www.jschild.med-all.net/Contents/private/cx3child/2019/007801/007/0033-0040.pdf>
- 李 霞 (2021). シンガポール就学前教育改革の現状と課題についての考察 ——教育課程政策の理想と幼稚園でのカリキュラム編成の実際に注目して——. *滋賀短期大学研究紀要*, 47(2), 57–70. <https://shigatan.repo.nii.ac.jp/records/156#>
- シネマトゥデイ (2021). 映画『モンテッソーリ 子どもの家』 Retrieved January 22, 2024 from <https://www.youtube.com/watch?v=AdObkoyQGqM>
- 清水 美恵・相良 順子 (2012). 子どもの早期教育と行動特徴. *国際幼児教育研究*, 20, 75–84. https://doi.org/10.34567/IAECE.20.0_75
- しちだ・教育研究所 (2023). 七田式教育とは？ Retrieved January 22, 2024 from <https://www.shichida.co.jp/about/makotoshichida/>
- 2024.7.16 受稿 2024.11.11 受理—